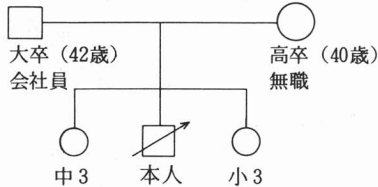


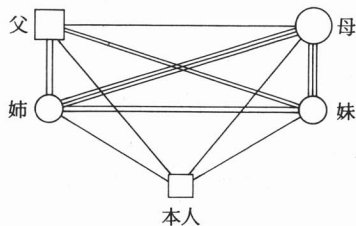
(3) 社会的次元

● 家族構成

父親は会社の若手課長として仕事熱心であり、子どもの世話は母親にまかせっきり、母親は家事と、夫、子供の世話をしながら、家庭でタイプの仕事をしている。



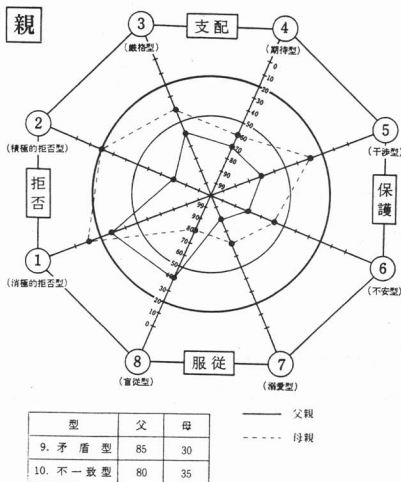
● 家族システム・力動



家族の中から本人だけが切り離されているひずみ型のタイプである。両親連合がやや弱く、母親と2人の子供（女子）の結びつきが強い。

● 両親の養育態度と姉妹との関係

— 親子関係診断検査 —



親子診断検査からは、父親は消極的拒否、盲従型で子供とのふれあいが少なく、遊んだりすることはほとんどないことがわかる。

父親は、子供の行動に無関心であり、あまり厳しく注意することはせず、普段は本人の言いなりになって甘やかしているが、母親からの要求で本人を叱ることがある。

母親は拒否、干渉、厳格で、本人への対応はことごとく厳しい。母親は父親の養育態度に不一致感を抱いている。

なお、家庭生活では次のようなことがある。母親は本人を自分の言いなりにさせようとするが、意に添わないことがあると殴ることがある。また、母親はPTAの役員でもあり、教育熱心で本人の能力以上の結果を求めて、叱咤激励することが多い。

姉妹は成績が普通以上であり、母親の指示にしたがった行動をするために、常に母親からの承認を受けている。姉妹は本人と言い争いをすることがあるが、ほとんどの場合、母親を味方にして本人を叱らせるようにする。

● 学校環境

① 教師のかかわりかた

年度が変わり新しく担任した学年でもあり、子供一人一人の実態把握が不十分のまま、指導に入った。本人のとり行動はその多くが担任の授業進行を妨害することになったため、ほめるより叱責することが多く、本人との信頼関係をつくりあげるのに苦慮した。

② 学級集団との関係

組替えがあったため、わかり合う今までの友人が少なくなり、注意を引こうとしてクラスの中で、おどけるような行動が多くみられた。

しかし、級友から受け入れられることが少なく、悪ふざけが高じて友だちを殴る、ける、物をこわすなどの行動をとるようになってきた。本人の意志に反して、暴力を恐れた友人は本人のとり言動に注意もできなくなり、本人を避けるようになってきた。